

完了後の評価個表

整理番号	26
------	----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	大分県
地域（地区）名	おおいたなんぶ 大分南部	事業実施主体	県、市、森林組合等
関係市町村	さいき 佐伯市	管理主体	県、市、森林組合等
事業実施期間	H23年度～R元年度（9年間）	完了後経過年数	5年

<p>事業の概要・目的</p>	<p>本地区は大分県南部に位置し、東は豊後水道に面し、西に位置する傾山から北東へ三国峠、佩楯山、中ノ谷峠、彦岳を経て四浦半島に至る山地と、傾山から南東へ宮崎県境の夏木山、宗太郎峠、陣ノ峰を経て日向灘に通じる山地に囲まれた面積 90 千 ha の地域である。</p> <p>本地区の総面積 87%にあたる 79 千 ha が森林であり、そのうち 65 千 ha が民有林、うち人工林は 34 千 ha（人工林率約 52%）となっている。人工林の齢級構成は、8 齢級以上が 76%を占め森林資源の充実が進んでいる。</p> <p>本地区の大宗を占める番匠川水系は、県南部の主要都市である市街化された佐伯市を貫流することで浸水被害発生時に多大な影響があるという流域の特徴があり、近年の集中豪雨によって洪水が度々発生している。本地区の森林はこれら河川の上流部にあり、本地区の木材産業のみならず地域経済の振興において重要な役割を担っている。</p> <p>このため、主伐の推進によって充実した森林資源を活用した地域の林業・木材産業の活性化を図り、併せて、再造林や下刈り、間伐等の森林整備を実施することにより水源涵養等森林の有する公益的機能を発揮させる必要がある。</p> <p>本事業では、大分南部地域森林環境保全整備計画に基づき、森林施業の集約化や伐採と造林の一貫作業などの効率化を図りつつ、主伐後の再造林や下刈り、間伐等の森林施業を計画的に実施するとともに、これらの効率的な推進及び木材の安定供給の確保に資する路網整備を一体的に実施したものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="margin-left: 20px;">森林整備 22,269ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐等</p> <p style="margin-left: 20px;">路網整備 2,210m 林道開設</p> <p>・総事業費 8,624,461 千円（税抜き 8,033,174 千円） （平成 22 年度の評価時点 5,777,070 千円（平成 23～27 年度の 5 年間））</p>
-----------------	---

<p>① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化</p>	<p>令和7年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、総費用及び総便益は現在価値化の計算等により前回評価時と比べ増加している。また、整備面積と増やしたこと等により便益が増加し、B/Cが増加している。</p> <p>総便益（B） 94,625,496千円（平成22年度の評価時点 58,639,882千円）※ 総費用（C） 16,030,170千円（平成22年度の評価時点 10,985,494千円）※ 分析結果（B/C）5.90（平成22年度の評価時点 5.33）</p>
<p>② 事業効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工造林や間伐等により22,269haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、林内の森林作業道の整備や林業機械の使用等により効果的な作業が行われたほか、木材の安定供給に寄与した。 ・ 林道が2,210m整備され、車両が通行可能となったことにより、利用区域までの通勤や林業機械等の運搬が容易となった。また、大型車両による木材運搬が可能となり、木材生産経費の縮減が図られた。 ・ 森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。
<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理されており、良好な管理状況にある。 ・ 整備された路網は、市により適切に管理されており、森林施業の際には施業者が草刈りや排水設備の手入れなどを行うなど良好な維持管理がなされている。
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>森林整備の実施により健全な森林が育成され、水源涵養や山地保全、木材の安定供給等といった森林の有する多面的機能が発揮されている。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>路網の整備によって林業機械作業システム等の導入が促進され、効率的・効果的な森林施業が実施可能となっている。これらを背景に木材の出材が促進され、令和2年度の素材生産量は県全体で1,041千m³と平成22年の752千m³から約38%増加した。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林の有する公益的機能の維持増進を図るとともに木材を安定的に供給するため、引き続き、森林経営計画等に基づく適切な森林整備及びその実施必要な路網整備を推進する必要がある。 ・ 本地区における人工林の多くが主伐期を迎えていることから、現地条件に即した再造林の実施が必要となっている。また、伐採と造林の一貫作業の更なる普及や特定苗木等を用いた低コスト造林の推進等により厳しい環境下にある林業経営体の安定的な収益の確保を図る必要がある。 <p>地元の意見： （大分県）</p> <p>森林整備事業の計画的な実施により、公益的機能の発揮に寄与している。今後も、将来の森林資源の確保を図りながら、効率的な木材の生産に必要な林業基盤整備や人材の育成・確保、需要に応じた適時適切に供給できる仕組づくりなどの体制整備を推進する。</p>

<p>評価結果</p>	<p>必要性： 本事業の森林整備により森林が適切に管理されたことで、水源涵養や土砂流出防止等といった森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。今後も公益的機能の維持的な発揮のためには、引き続き適正な再生林や間伐等の森林整備が必要であることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 路網を効果的に配置することにより、林業機械等の搬入が容易となり機械化等を通じた効率的かつ適確な森林整備を実施しており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 森林資源の現況を踏まえた計画的な事業実施を継続することにより、森林の有する多面的機能の維持増進が図られており、引き続き、その効果が発揮されることが見込まれるため、事業の有効性が認められる。</p>
-------------	---

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

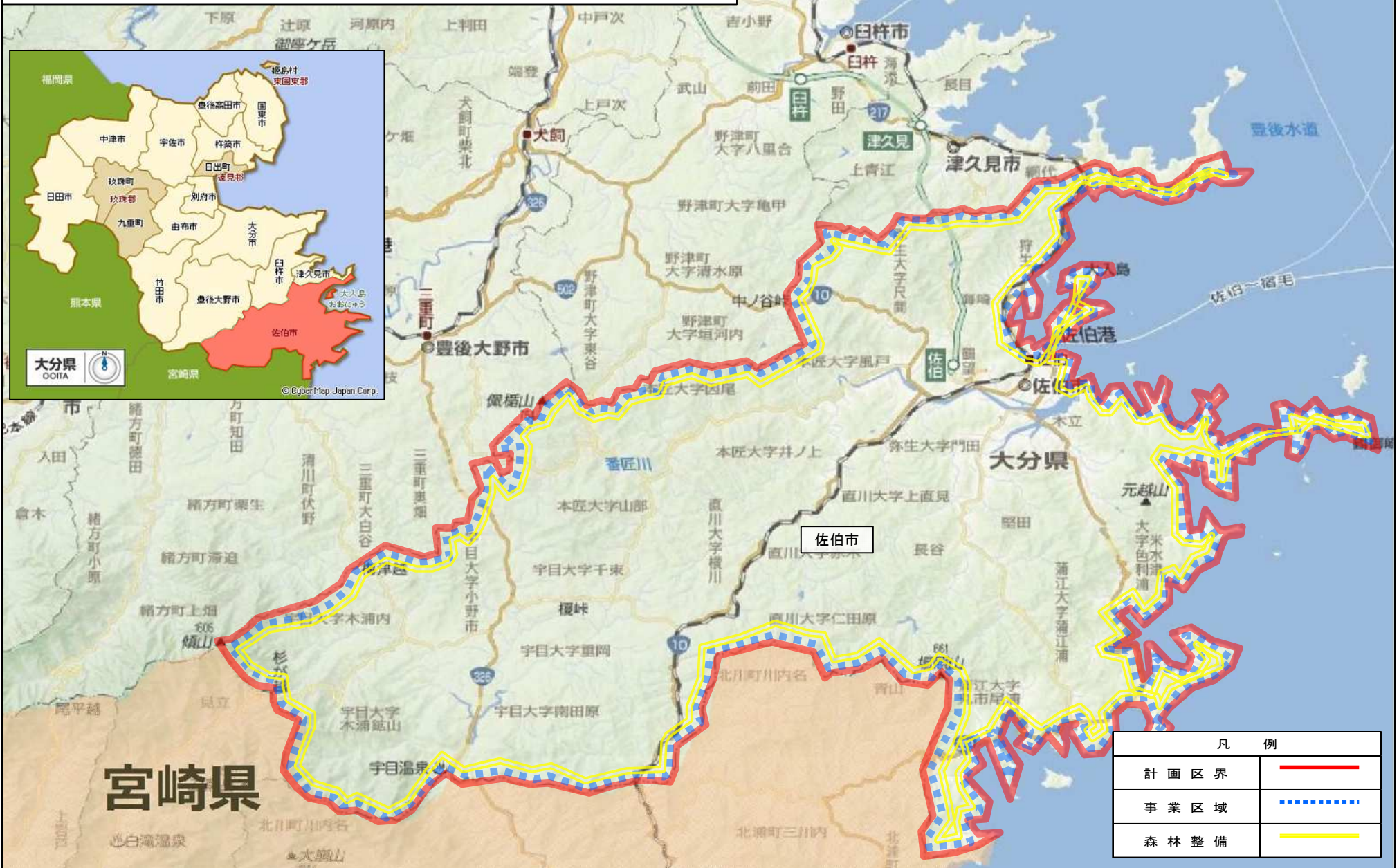
都道府県名：大分県

地域(地区)名：大分南部

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	37,281,207	
	流域貯水便益	4,831,944	
	水質浄化便益	19,299,850	
山地保全便益	土砂流出防止便益	14,857,209	
	土砂崩壊防止便益	87,052	
環境保全便益	炭素固定便益	5,095,885	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	615,385	
	木材利用増進便益	628,530	
	木材生産確保・増進便益	11,300,590	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	158,389	
	森林管理等経費縮減便益	1,281	
	森林整備促進便益	261,678	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	15,549	
維持管理費縮減便益		190,947	
総 便 益 (B)		94,625,496	
総 費 用 (C)		16,030,170	
費用便益比	B÷C=	$\frac{94,625,496}{16,030,170} = 5.90$	

森林環境保全整備事業 大分南部地域(大分県)概要図



凡 例	
計画区界	— (Red line)
事業区域	- - - (Blue dashed line)
森林整備	— (Yellow line)